

竹下復興大臣「東北応援ビレッジ」訪問会見録

(平成27年5月9日(土) 13:40～13:43 於) 東京都千代田区)

1. 質疑応答

(問) セレモニーの挨拶の中で、魂のこもった商品というお言葉を使われたと思いますが、今日視察されてどのように感じられましたか。

(答) 被災地をずっと回っていきまして、被災地の女性たちや漁師たちや、いろんな人たちが本当に手づくりで、本当に魂削りながら作っている姿を見てまいりましたので、そうしたものを、ぜひ、その魂を受けとってもらいたい、品物はもちろんであります、その魂を受けとってもらいたいという思いで、お話をさせていただきました。

(問) 復興はまだ道半ばということをおっしゃられると思うんですが、そういった中で、こういった企画を通じて、どのようなことをやっていくべきだというふうに、取り組んでいきたいと考えておりますでしょうか。

(答) 一つはやっぱり4年余りがたって、記憶の風化というのが残念ながら、これ人間ですから避けて通れない。だから、いろんな節目節目、あるいは、企業の皆さん方が思い起こしていただいたときに、こういう形で、東京で、あるいは大阪で、あるいは沖縄で、どこでもいいんですが、もう一回東北を思い出してみようじゃないかという、心を奮い立たすというか、そういったことが、やっぱり支援がしっかりと長く続いていくことにつながっていくと。まだ東北は支援を求めていますので、全国の若者たちやボランティアをやってみようという皆さん方にはぜひ、本当にぜひ参加していただきたい。これは、自分の人生の中で、じゃ、もう一回ある時期が来たら経験できるかというものではなくて、今しか経験できないボランティア活動でありますので、ぜひ若い人たちには参加をしていただきたい、1日でもいいから活動に参加していただきたいと、そういう思いを、こういう会を通じてエンカレッジしていければなど、こう思っております。

(問) 大臣、先ほど書かれたメッセージの中でも、多くの若者よ、未来は君たちのものだというメッセージだと思うんですが、その書いた思いは、どのような思いを込めて書かれたか。

(答) 我々は、そう遠くない将来にこの世からいなくなってしまうわけですが、若い人たちにとっては、どんなに壊れても、どんなに厳しい状況にあっても、ふるさとなんです。そのふるさととは、自分たちで切り拓いていかなければ、自分たちで守っていかなければ、もっていけないんだと、そういう思いを込めて書きました。

(問) 大臣、今のメッセージのお話でもあるんですけども、復興する上で、やっぱり若者というのは、先日サントリーホールで、みちのくオーケストラのときも、壇上のでちょっと声詰まらせたりすることもあったんですが、やっぱり復興する上で若者というのは、やっぱり大きな要因になるという部分が、やはり大きいとお考えですか。

(答) 要因ですし、もう我々は、最高の期待を若者たちにしております。やっぱりあれだけ、世界で一番厳しい状況に置かれた若者たちの中から、あるいは子どもたちの中から、私は世界で通用する人間が必ず出てくると。生半可な緩いところでは出てきません。きついところから、厳しいところから、世界に通用する人たちが必ず出てくると、そのことに大きな期待をいたしております。

(以 上)